

刀工（1/2）

～百練の精をこらした鉄の芸術 — 唐津刀～

唐津地方には、室町～江戸期にかけて浜玉地方の砂鉄によって刀が作られた記録が残されている。

わが唐津には天下の名刀、古今の業物を残した名刀工はみられないが、百練の精をこらした鉄の芸術—唐津刀が残されている。現在まで古刀に属する刀工7人、新刀8人、新々刀2人が数えられ、浜崎、玉島あたりの砂鉄をもって、ときに豊後から、佐賀から、また京師に遊び、精進潔斎して己を空しうし、幾多の神秘的な輝きと、優雅な美しさを誇る3尺の秋水を生んだ。そして焼刃の「におい」のなかに、雲の流れ、遙かな山波、岩に砕ける怒濤、春風に静かに匂ふ花などの自然美を「鉄の芸術」として打ら込んでいる。

興亡盛衰の歴史に彩られた幾多の名将、武人の花の宴、戦場の争闘の物語を秘めた白刃という、生死絶対の場に織りなされた人間の愛憎、哀歓の歩みは、民族の歴史の一面を偲ばせるとともに、郷土の叙情詩でもある。

■古刀（室町時代）

- 重次——文明の頃浜崎に住し、銘は「肥前浜崎住重次」と彫っている。
- 貞清——永正の頃浜崎に住し、銘は「浜崎太郎左衛門貞清」と彫る。
- 重退——大永の頃浜崎に住し業物を造っている。銘は「肥州浜崎住重進」と彫る。
- 重則——大永享禄の頃浜崎に住し、備後にも住した。銘は「肥前浜崎住重則」と彫る。
- 重方——享禄の頃浜崎に住し業物を造った。銘は「肥州浜崎住重方」と彫っている。
- 重延——享禄の頃おなじく浜崎に住す。銘は「肥前浜崎住重延」と彫っている。
- 重貞——天文の頃同じく浜崎に住し、銘は「肥前浜崎住重貞作」と彫る。

～2/2へつづく～

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『唐津市史』P830
- ◆『浜玉町史』
- ◆『末盧国』（第10号、第18号、第19号、第20号）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html

刀工（2/2）

～百練の精をこらした鉄の芸術 — 唐津刀～

～1/2からつづく～

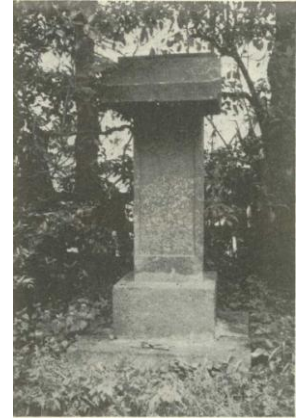
■新刀（江戸時代）

- ・ 綱慶——寛文のころのひとで、佐賀に生れ、のち唐津に来住した。後年芸州広島城下中島に移住し、五兵衛と号した。銘は「於肥前唐津源綱慶作」と彫っている。
- ・ 国慶——延宝のころのひとで長崎でも刀を造っている。銘は「於肥前唐津源国慶造」または「肥前国住佐々木平馬尉国慶」と彫った。
- ・ 初代本行——豊後藤原、高田より出て、紀の行平の末裔と称した。それで初銘は「行平」と彫っている。延宝年中肥前唐津に移住し、代々唐津に住んだ。後年東武へ下り、麻布鷹石に住居し本阿弥家より「本」の文字を授かって本行と改名した。そのころ相州鎌倉へ往来して綱広の門にはいり、鍛刀法を改修して、唐津に帰郷した。1名「松葉本行」と称え、「本行」の本の字をこわし松葉のごとく彫ることからこの名が出たものである。享保の始め80余歳で歿した。このひとは銘に文章を彫ることを好んだひとで、さまざまの銘文がある。はじめは「高田河内守源本行」と彫り、のちには「豊後太郎本行」と切っている。裏銘に「於肥前唐津梅豆羅郷玉島川平」や「豊後太郎本行70余歳造羊漸刀作自己消光」などの銘がある。
- ・ 二代本行——享保、元文ころ唐津に住した。銘は「河内守源本行」と切った。
- ・ 三代本行——宝歴のころ唐津に住した。宝歴13年土井家総州古河に移封となったとき、従って古河に移住した。銘ははじめ「肥前唐津住河内守源本行」と彫り、または「高田河内守源本行」と切った。後年転任して「肥前守源朝臣本行」と切った。
- ・ 四代本行——総州古河にて業をかえ、医師となり刀工の家系断絶した。
- ・ 尚行——延宝年中より、元文年間にかけて唐津に住し紀の行平の末流と称した。直行の養父である。銘は「豊後高田住藤原尚行」と彫り裏銘に「住唐津」と切った。
- ・ 直行——元文、宝歴の間唐津に住し、本行の次男にして尚行の養子となる。老後は有徹と号し大和守に任ぜられた。銘は「豊後国鬼鏡直行造之」または「於肥前唐津直行造」「鬼鏡有徹」「肥前唐津住虎徹」とも切っている。裏銘には「以南蛮鉄鍛之」など色々の銘を切っている。
- ・ 秀光——嘉永の頃江戸より唐津に移住したひとで、現在本町の正田氏の祖父である。銘は「武蔵太郎秀光」と切っている。
- ・ 正景——明治のころのひとと思われるが、銘に「肥前唐津住正景」と切ったものがある。

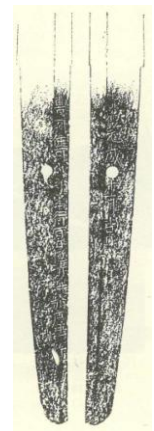
分野 文化

地域 浜玉・唐津

◎地図・写真・統計資料など



松葉本行の碑



刀 2尺3寸3分

（『末盧国』より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『唐津市史』P830
- ◆『浜玉町史』
- ◆『末盧国』（第10号、第18号、第19号、第20号）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html